［編集復刻版］

戦前期「外地」図書館資料集

「台湾編」全十巻

書誌・出版史・書物メディア史のシリーズ
＊文圃文献類従 51＊

編・解題—春山 明哲
造　　本—B6 判・上製函　総約 2,957 頁
価　　格—全巻揃価 198,000 円

【第一回配本】2016 年 6 月 ISBN978-4-907236-51-9
一巻　約 266 頁　私立図書館①
二巻　約 261 頁　私立図書館②

【第二回配本】2017 年 1 月 ISBN978-4-907236-52-6
三巻　約 455 頁　総督府図書館①
四巻　約 438 頁　総督府図書館②

【第三回配本】2017 年 8 月 ISBN978-4-907236-53-3
五巻　約 412 頁　州立公共図書館　台中①
六巻　約 436 頁　州立公共図書館　台中②
七巻　約 412 頁　州立公共図書館　新竹①

【第四回配本】2018 年 1 月 ISBN978-4-907236-54-0
八巻　約 436 頁　州立公共図書館　新竹②
九巻　約 360 頁　市立公共図書館　台中／台南
十巻　約 329 頁　市立公共図書館　台南／
街立・庄立公共図書館

† 本書は、戦前期日本統治下にあった台湾の各種図書館の活動や業務内容を伝える要覧・報告書、図書館報、年史、各種分野の特定主題目録、写真帖等を集成した資料集である。収録対象としては、台湾総督府図書館及び私立・公立図書館の刊行物を中心とする。

† これらの資料は現在、国内はもとより、台湾においても存在が稀少であり、今後の図書館史研究はもちろん、広く読書・出版物・メディアに関する社会・文化史の研究にも有益な内容を含む。

† 戦後、日本の図書館が出発するに際し、この外地において展開された活動が館界において、どのような役割を果たしたのだろうか？
図書館、メディア、社会・文化史において、これまで詳細に検討されなかった課題を明らかにする。

第一回全島図書館協議會

TAIWAN

「□□——編者のことば 春山明哲」

1895（明治28）年4月、日清戦争の講和条約（下関条約）により、日本は清国から台湾及び澎湖諸島を「割譲」され、以後1945（昭和20）年8月敗戦の結果、ポツダム宣言を受諾し、同年10月中華民国が台湾を接収するまでの間50年余り、台湾は大日本帝国の「外地」として統治された。本書のタイトルで「戦前期」とは、1895年から1945年を指す〔中略〕。

このような多様な民族構成とオランダ、鄭成功、清朝以来の重層的歴史を持つ台湾社会を統治するにあたり、台湾総督府の統治当局は試行錯誤を繰返しながらも、明治維新以降の近代化のプロセスを台湾においても基本的には踏襲していったといえる。

台湾の統治システム、財政金融、社会インフラ、産業、教育等々の植民地的構造と特性とは歴史研究の蓄積が相当なされている。なかでも、台湾社会を日本帝国に統合する手段として学校教育と国語の伝授は領台初期から非常に重視され、多くの研究関心を呼んできた。

しかし、社会教育に包括される図書館については、台湾統治における位置付けは当初必ずしも高くなく、台湾図書館界の活動が盛んになったのは大正期以後である。台湾図書館史は今後の研究領域としてはまだ未開拓の分野といってもよく、本書はその研究の基盤となるものである〔本書「解題」より〕。

「戦前期「外地」図書館略年表——台湾編」

1895　日清戦争の講和条約（下関条約）により、清国から台湾及び澎湖諸島を「割譲」

1901　台湾文庫が設立するも短期間で閉鎖

1908　台湾総督府博物館、設立

1909　私立石坂文庫が 2 階建て、蔵書 8,000 冊余りで開館、台湾近代図書館の「先駆」（宇治郷毅）

1911　指南宮に桃園文庫、設立（27 年新竹州下桃園街に移管、桃園街立図書館となる）

1914　台湾総督府図書館、設立、初代館長は隈本繁吉

1915　公立中学校、設置

1916　台湾総督府図書館二代目館長として帝国図書館の司書官で日本文庫協会（図書館協会）の初期リーダーの一人・太田為三郎が就任。ここに台湾近代の図書館経営が社会教育行政の一環として展開される端緒が築かれる

1919　台湾教育令公布。台湾総督に田健治郎を任命（最初の文官総督）。台南図書館が台南公館の附属事業として開始（台湾富豪・辜顕栄による寄附金により 21 年本館建築起工、23 年台南市に移管され、台南市立台南図書館となる）

1921　石川県立図書館長から転じ、三代目総督府図書館長に並河直廣が就任。図書館サービス展開と業務拡充を行なう。冊子体『台湾総督府図書館一覧』刊行もそのひとつであり、この『一覧』により総督府図書館の動向を得られる

1922　総督府図書館が巡回文庫開始。改正台湾教育令

1923　「公立私立図書館規則」により台湾の図書館制度が整備される。これにより、州・市・街・庄の地方行政組織が管理する公立・私立図書館設立の根拠法規が成立。台中州立図書館が閲覧を開始

1924　摂政宮殿下行啓記念として嘉義図書館、高雄図書館等設立

1925　私立石坂文庫が基隆公益社に移管され基隆文庫と改称（その後 32 年基隆市に移管され、基隆市立基隆図書館となる。新竹州立新竹図書館、台中州の鹿港街立図書館が開館

1927　五代目総督府図書館長として山中樵が着台着任。台湾図書館協会・「全島図書館協議会」設立。「図書館及び図書に関する事項を調査研究し本島に於ける図書館事業の進歩発達を計る」こととなる

1928　台北帝国大学附属図書館設立、司書は武田虎之助・裏川吉太郎・大山綱憲

1929　山中樵、全島教育課長会議で「公共図書館、学校図書館の充実の必要」を説く。全国図書館協議会が台北市で開催

1930　霧社事件

1932　第一回全島図書館週間を実施

1933　台湾愛書会『愛書』発行

1935　総督府主催第一回全島公私立図書館長会議。

1935　全島読書週間実施、読書に関するポスター募集展示

1936　第一回図書館事務研究会、総督図書館目録再編五ヶ年計画実施。彰化市立図書館が開館

1937　台湾総督府図書館が中央図書館に。第一回皇軍慰問図書募集、16,000 冊を陸海軍へ

1940　南方資料館設立、南進の国策に沿う資料収集を行う

1943　国民読書運動六ヶ年計画を策定。『国民読書の栞』（皇民奉公会）を刊行。第六回皇軍慰問雑誌募集、50,580 冊を陸軍部隊へ

1944　総督府図書館、十九万冊の蔵書の疎開を開始。台湾人日本兵が兵役に服務、これと同時に衆議院議員選挙法改正、台湾住民にも衆議院選挙の選挙権が認められる

1945　総督府図書館、国民政府に接収。台北市大空襲を受け総督府図書館被災全焼。山中樵、全島に巡回文庫を再開実施、図書館博物館接収を受ける要員として新中国文化事業に協力

1946　総督府図書館・南方資料館が合併し、台湾省行政長官公署図書館に改称。山中樵、戦犯拘置所に対し貸出文庫を実施

〔本書ならびに『木山人山中樵の追想——図書館と共に三十六年』（1979）より作成〕。

昭和三年度
巡回書庫分布圖
附全島圖書館分布圖
全島圖書館州廳別館數
台北州 九館
新竹州 五館
台中州 一六館
台南州 二〇館
高雄州 五館
台東廳 一館
花蓮港廳 一館
澎湖廳 —
計 五七館
基隆石坂文庫 → 基隆文庫
桃園街立図書館
鶯歌庄図書館
新竹図書館
竹南図書館
台湾総督府図書館
鹿港街立図書館
台中州立図書館
市立嘉義図書館
彰化市立図書館
台南市立台南図書館
屏東街立図書館
本館巡回書庫ヲ廻附セサル圖書館
運付書庫一個
赤丸 兒童用
青丸 大人用
全 二個
全 三個
全 四個

「台湾編」第一・二巻　【私立図書館】

†明治期創設、台湾近代図書館の先駆・「私立石坂文庫年報」全巻を収録。文庫の活動内容とともに、創業者石坂荘作の図書館思想を知りうるもの。また、伊能嘉矩・新渡戸稲造などが寄稿するなど台湾図書館文化を先導。

【一巻】約 266 頁

資料 1 『私立石坂文庫第一年報〔自明治 42 年 10 月 1 日至明治 43 年 9 月 30 日〕』
（基隆石坂文庫、1910 年）

資料 2 『私立石坂文庫第二年報(自明治 43 年 10 月 1 日至明治 44 年 9 月 30 日)』
（基隆石坂文庫、1911 年）

資料 3 『私立石坂文庫第三年報（自明治 44 年 10 月 1 日至大正元年 9 月 30 日)』
（基隆石坂文庫、1912 年）

資料 4 『私立石坂文庫第四年報（自大正元年 10 月 1 日至大正 2 年 9 月 30 日)』
（基隆石坂文庫、1913 年）

資料 5 『私立石坂文庫第五年報（自大正 2 年 10 月 1 日至大正 3 年 9 月 30 日)』
（基隆石坂文庫、1914 年）

資料 6 『私立石坂文庫第六年報（自大正 3 年 10 月 1 日至大正 4 年 9 月 30 日)』
（基隆石坂文庫、1915 年）

資料 7 『私立石坂文庫第七年報（自大正 4 年 10 月 1 日至大正 5 年 9 月 30 日)』
（基隆石坂文庫、1916 年）

資料 8 『私立石坂文庫第八年報（自大正 5 年 10 月 1 日至大正 6 年 9 月 30 日)』
（基隆石坂文庫、1917 年）

資料 9 『基隆石坂文庫第九年報（自大正 6 年 10 月 1 日至大正 7 年 9 月 30 日)』
（基隆石坂文庫、1918 年）

【二巻】約 261 頁

資料 10 『基隆石坂文庫第十年報（自大正 7 年 10 月 1 日至大正 8 年 9 月 30 日)』
（基隆石坂文庫、1919 年）

資料 11 『基隆石坂文庫第十一年報(自大正 8 年 10 月 1 日至大正 9 年 9 月 30 日)』
（基隆石坂文庫、1920 年）

資料 12 『基隆石坂文庫第十二年報(自大正 9 年 10 月 1 日至大正 10 年 9 月 30 日)』
（基隆石坂文庫、1921 年）

資料 13 『基隆石坂文庫第十三年報(自大正 10 年 10 月 1 日至大正 11 年 9 月 30 日)』
（基隆石坂文庫、1922 年）

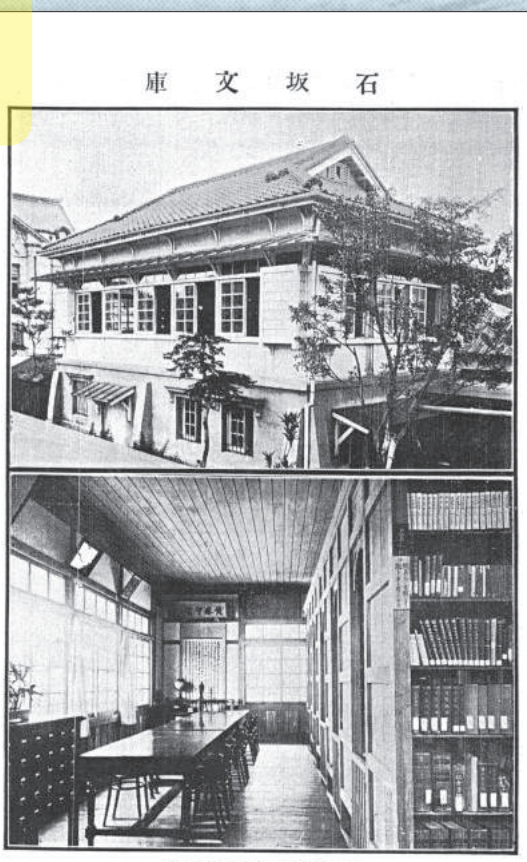
資料 14 『基隆石坂文庫第十四年報(自大正 11 年 10 月 1 日至大正 12 年 9 月 30 日)』
（基隆石坂文庫、1923 年）

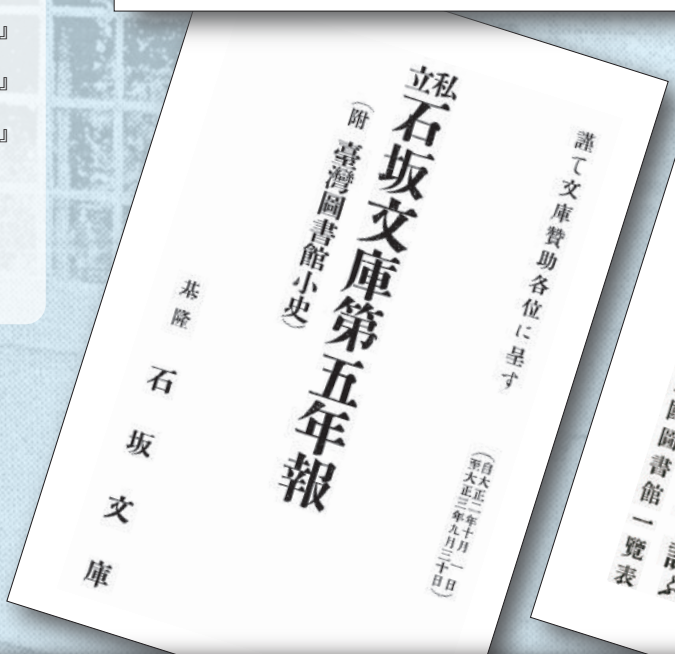
資料 15 『基隆石坂文庫第十五年報(自大正 12 年 10 月 1 日至大正 13 年 9 月 30 日)』
（基隆石坂文庫、1924 年）

資料 16 『基隆文庫沿革及概要』（基隆文庫、〔1930 年〕）

資料 17 『基隆市立基隆図書館要覧（昭和 11 年 1 月)』
（基隆市立基隆図書、1936 年）

資料 18 『基隆市立基隆図書館要覧（昭和 12 年 1 月)』
（基隆市立基隆図書、1937 年）





東京帝國海事協會
臺北臺灣語通信研究會　語苑、明治四十二年一月以降。
東京丸善株式會社　學鑑、明治四十二年十月以降。
臺北臺灣教育會　臺灣教育、明治四十二年十月以降。
臺北吉川精馬殿　實業之臺灣、明治四十二年九月以降。
臺北臺灣法月報發行所　臺法月報、明治四十二年十月以降。
臺北高橋醇領殿　眞佛教、明治四十三年二月以降。
臺北臺灣パック社　臺灣パック、明治四十四年十月以降。
臺北臺灣鐵道會　臺灣鐵道、明治四十五年七月以降。
臺北臺灣農友會　臺灣農事報、大正元年九月以降。
臺北臺灣鑛業會　臺灣鑛業會報、大正元年十二月以降。
神奈川石川欽一郎殿　みづゑ、大正元年十月以降。
臺北長尾恒子殿　ローマ字世界、大正三年十月以降。
臺北臺灣總督府圖書館　臺灣總督府圖書館新著圖書目錄、大正五年一月以降。
臺北臺灣水產協會　臺灣水產雜誌、大正五年七月以降。
基隆基隆燈臺所　基隆測候所氣象觀測表、基隆燈臺所氣象概況、大正五年十月以降。
臺北臺灣米穀移出商同業組合　臺灣米穀移出商同業組合月報、大正六年一月以降。
東京黑白發行所　黑白、大正六年三月以降。
臺北婦人と家庭社　婦人と家庭、大正九年一月以降。
臺北若草會　わかくさ、大正七年一月以降。
東京純福音社　純福音、大正十年二月以降。
臺北基督教北青年會　臺灣の青年、大正十年四月以降。
臺北臺北聖公會　教會時報、臺灣聖公會會報、大正九年十二月以降。
臺中自治公論臺灣支局　大東政論、大正十年八月以降。
臺北大久保辨太郎殿　ゆうか梨、大正十年十月以降。
臺北臺灣三成協會　まこと、大正十一年一月以降。
臺北臺政新報社　臺政新報、大正十一年五月以降。
鹿兒島津曲兼義殿　三田評論、大正十年九月以降。
臺南臺南州立臺南中學校　校友會雜誌、大正十一年三月以降。
大阪甘粕勇雄殿　新總味、新青年、大正十一年二月以降。祕密探偵雜誌
臺北臺灣文化協會　臺灣文化叢書、大正十年五月以降。
北投みのむし會　みのむし、大正十一年二月以降。
鳳山藤井直喜殿　ときの聲、大正十年十二月以降。
臺北臺灣ローマ字社　臺灣ローマ字、大正十年八月以降。